

失敗を繰り返し、経験を積み、 実力と運を味方に人生を楽しもう

幼少の頃、鎌倉の海で世界一周をしたいと思いついた海洋冒険家の白石康次郎さんは、2016年、単独無寄港世界一周レース『ヴァンデ・グローブ』に参加されました。残念ながら、マストトラブルでリタイアを余儀なくされましたが、2020年に再挑戦します。その意欲と、人生を楽しむコツを語ってもらいました。

**幸せに感謝すれば、
幸せがずっと続く**

僕は、好きなことをずっとしてききました。もちろん、達成するためにいろんなことに取り組み、乗り越えてきました。でも、苦難を乗り越えたからといって、達成を手に入れられるわけではありません。好きなことをするために難しいことを乗り越える。それが大切です。

もっと大切なことがあります。「幸せになりたい」と言っている人は、実は今が

不幸なのでしょうね。幸せな人は、「幸せになりたい」とは思わないでしょう。

幸せな人は、幸せであることに感謝していると思います。幸せだなんて思っていないと、本当に幸せが手に入ります。思考の順番を逆にすれば、すごく簡単なことだと思います。

苦勞の先には苦勞が少なく、幸せの先には幸せが続きます。僕は、そう思っています。好きでもないことをするから不幸になる。好きなことをするから幸せになる。どちらが正しい生き方だと思いますか？

まだだから僕には厳しかったのですが、一度注意して直れば良いという考えでした。「身」に「美しい」と書いて、「僕」です。人間としての所作だから、良い悪いではなく、美しく生きるための習慣を身につけさせてくれました。

親父が、教育関係の雑誌に「子どもっていうのは大人が言うことなんか聞かない。大人のすることを真似するものだ。俺は子どもの邪魔をしない」と書いていました。美しく生きるためには、好きなことをするのが一番です。星が好きな兄は、プラネタリウムのエンジニアをしています。

す。船が好きな僕は、世界一周の夢を追いつけていますね。

**実力をつければ、
想定外を予測できる**

世の中で、働き方改革が話題になっています。僕の場合、好きなことをしているので、大袈裟に言えば24時間働いても平気です。なぜかという、自分で決めた目標に向かっていくからです。仕事がストレスと言いますが、それはウソですね。仕事ではなく、好きでもないことをするからストレスを感じます。要するに、仕事の中で自分が納得できる楽しみや目標を見い出さない限り、ストレスは解消しないのです。

例えば、想定外の事態に直面すると、大きなストレスを感じる人は多いと思います。

僕もそうです。ただ、ストレスにならないように、あらかじめ想定外が起きることを想定内に考えています。僕は、その時にできる最先端の準備をします。考えられる準備をしても想定外は起きますが、それでも何事も想定内に収めます。

そのポイントは、失敗を繰り返した経験の積み重ねです。

世界一周という自分で決めた目標に、2回失敗しました。アジア人初参戦で優勝を狙って挑戦した単独無寄港世界一



海洋冒険家
白石康次郎さん

**好きなことをすれば、
美しく生きられる**

よく、「子どもだけは幸せになってほしい」という声を聞きます。それって、不可能ですよ。親が自分を犠牲にしても、子どもは幸せになれません。そんなこと

周レース『ヴァンデ・グローブ』もリタイアして帰ってきました。好きなことに挑戦して、最初に成功したらおこがましいですね。何度も失敗を繰り返して、経験を積み、実力がついてから成功すると次のステップに進めると思います。

**幸せでいることが、
運を手繰り寄せる**

経験を積んだ人は説得力があるし、失敗を重ねた人は強いと思います。学校でも、自分の失敗や経験を語る先生は人気があり、子どもたちから尊敬されます。親も同じ。職場でも同じです。

世界一周をしようと思った時にどうしたかという、世界一周をした人を電話帳で調べて、「弟子にしてください」と頼みました。『ヴァンデ・グローブ』もフランスに行つて教えてもらいました。初めは、「そんなこともわからないのか」って言われて、「だから、わざわざ来たんだよ」って感じでした。

自分で決めた好きなことをしているのに、大海原で考えるのは、「早く帰りたいなあ」なんです。そのために、予期せぬ出来事に前向きに対処している時間は、すごく楽しいですね。

自然を相手に冒険していると、運がよければ回避できることがたくさんあります。だから、僕は運をあげるために、常



撮影:YOICHI YABE

Shiraishi Yasujiro

三崎水産高等学校在学中に、単独世界一周ヨットレースで優勝した故・多田雄幸氏に弟子入り。1994年、26歳でヨットによる単独無寄港無補給世界一周の史上最年少記録(当時)を樹立。2006年、単独世界一周ヨットレース「ファイブ・オーシャンズ」クラスI(60フィート)に参戦し、歴史的快挙となる2位でゴール。2016年11月には最も過酷な単独世界一周ヨットレース「ヴァンデ・グローブ」にアジア人として初出場を果たす。また、子どもたちと海や森で自然を学習する体験プログラム「リビエラ海洋塾」を開催するなど、子どもたちに自然の尊さと「夢」の大切さを伝える活動に取り組んでいる。